

きの国字である。現代漢語では脾臓のことは脾腺<sup>いせん</sup>という。

文1 大友一夫：温故一肝脾の位地について，東静漢方研究室（合冊版）  
2（6）：450-462，1976

文2 王肯堂：医統正脈全書，新文豊出版公司（中華民国），3125頁

## II. 脾の病態

脾の病態の特徴は次の3つである。①脾の機能低下状態である虚証（脾虚），②おもに湿邪の停滞のために脾の機能が阻害された実証，③脾胃の昇降作用の失調という作用の方向性の異常病態である。換言すれば，脾の病証の本は脾虚であり，標は湿邪と昇降失調ということになる。

### 1 脾の機能低下 —— 虚証

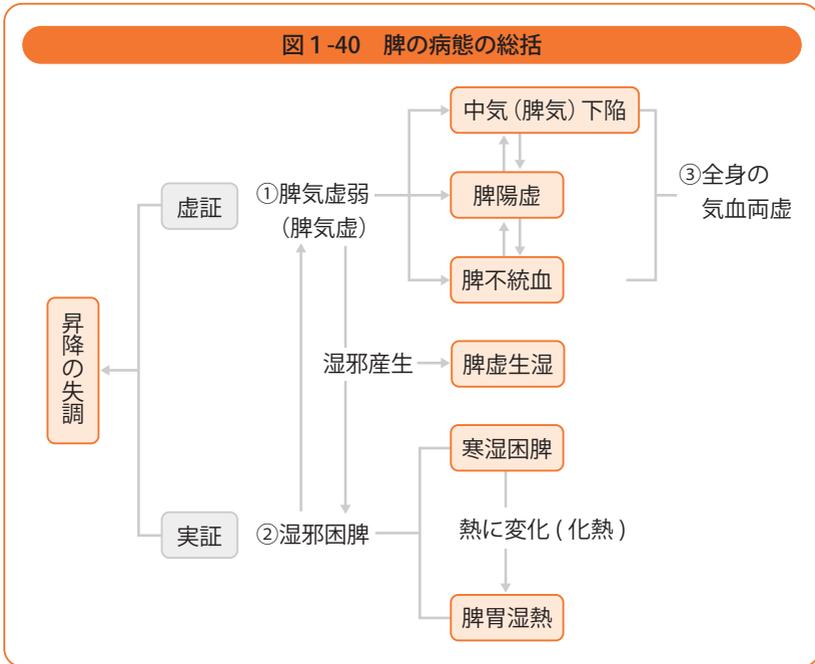
脾の機能が低下した状態を脾気虚あるいは脾気虚弱という。通常脾虚といえば，この脾気虚を指す場合が多い。脾不統血<sup>+</sup>や中気下陷<sup>+</sup>は，この脾気虚証の基礎のうえに発展出現したものである。また原則として脾血虚証は起こらない。脾気虚が進み重症になると，脾陽虚<sup>+</sup>とよばれるようになる。陰虚証になることは稀であり，脾虚では寒症状が出現しやすい。

脾気虚証では，次のような2つの病態が出現する。まず①飲食物の消化吸収が不良となる。ついで②消化不良のために，生命力がうまくつくられず生命力低下の病態が出現する。

**消化吸收不良**：飲食物の消化吸収が不良になると，さらに次の3つの病態が出現する。

①**消化不良**：飲食物の消化吸収がうまくいかず，不消化物が停滞して，胃もたれ・食欲不振・下痢などが出現する。

②**水分吸収不良**：消化吸収機能が低下し，水分の吸収が不良となり，



病的水分となって停滞し痰湿症状が出現する。これを脾虚生湿あるいは脾虚生痰（脾虚，湿〈痰〉を生ず）という。多くは虚実錯雑証となり寒湿症状がよくみられる。

③血運搬の不良：経絡から血の漏れを防ぐ作用が低下すると（脾不統血），出血症が出現する。

生命力生成の低下：消化不良の結果，飲食物からの気血生成が低下し，次の3つの病態が出現する。

①気血両虚証：全身的な気血両虚証となるが，気虚証が主となる。全身倦怠感・息切れ・顔色不良などが出現する。

②中気下陷：人体を支える力が低下し，吸収された飲食物を上昇させる力が低下する。下垂感・疲労時のほてり・めまいなどが出現する。

③肺気虚：肺の気（宗気）の生成は、脾によって上昇運搬された滋養物質が1つの原料となる。脾虚のため滋養物質は少なくなり、結果として肺気は生成不良となり、肺気虚が出現しやすくなる。この脾肺両虚は、臨床的によくみられ、感冒となりやすい・汗をかきやすい・息切れなどが出現する。

## 脾気虚証

脾の飲食物の消化吸収力が低下し、その結果、生命力が生成不良となった病態。上述の②水分停滞は軽度なことが多い。また不統血症状や中気下陷はみられない。これらの病態を単に脾気虚ということが多い。具体例は本シリーズ第2巻の症例4の六君子湯例を参照。

**症状：**消化吸収（運化）作用の低下による消化器症状、水湿吸収不良による軽度の水湿症状、全身の気虚症状が出現する。

①**消化器症状：**食後の胃もたれ・心窩部脹満感・食欲不振・便通異常（交代性の下痢や便秘など）などである。その他に食後に体調が不調となる、食後眠くなるなどの症状もみられる。

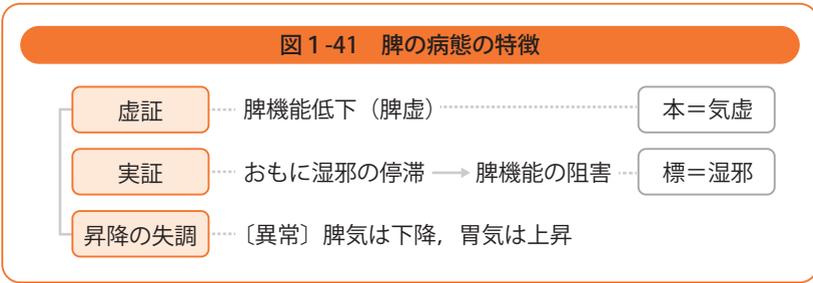
②**水湿症状：**軟便・泥状便・水様便などの便通異常がよくみられる。また肺の痰の形成が助長されることもある。

③**全身気虚症状：**倦怠感・疲れやすい・けだるい態度・羸瘦などのほか、心窩部をさすられたり押されると心地よい（喜按）など、さらに顔色不良（くすんだ黄色や蒼白色など）・艶のない肌などもみられる。

④**舌脈：**舌淡白舌・薄白苔、齒痕、肥大舌。細・濡・緩脈など。

**治法：**脾の機能を高め全身を元気にする（健脾益気）。四君子湯が基本方剤であるが、臨床では六君子湯が基本方剤として多用される。慢性の下痢などには啓脾湯・参苓白朮散\*、痞塞感やゲップなど気滞を伴う時には香砂六君子湯\*（六君子湯合香蘇散で代用）、血虚を伴うときには帰脾湯などが使用される。

図 1-41 脾の病態の特徴



## 脾陽虚証

上記の脾気虚がより重症化したもの。

**症状：**脾気虚症状に加えて，寒証症状や湿症状がみられるようになる（具体例は，本シリーズ第2巻の症例3と5の脾虚に人参湯例を参照）。

①**脾気虚症状と全身気虚症状：**上記を参照。

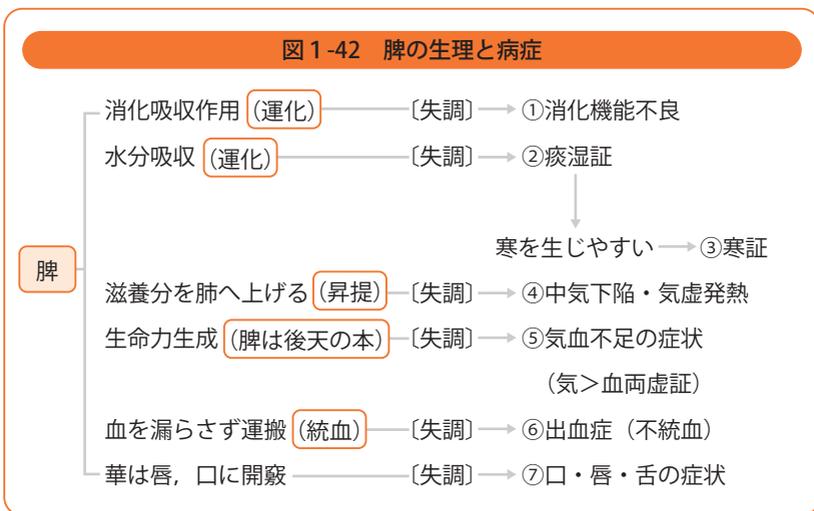
②**寒症状：**寒さや寒性飲食物で下痢や胃もたれ，寒さのために気めぐりが低下し腹部や心窩部の鈍痛や脹満感などが出現する。下痢便が多いが，時に便秘となることもあり注意を要する。その他，寒冷刺激で不調・四肢の冷感・温かい飲食物を好む・温暖刺激で体調がよいなどの一般的寒症状などがみられる。

③**水湿症状：**四肢の浮腫・尿が少ない・透明尿などが出やすい。また寒性の湿気によるおもに白色透明帯下・透明唾液が多いなどもみられる。

④**舌脈：**淡白色舌・肥大・歯痕など，脈は沈・細・遅脈など。

**治法：**脾の機能を温めて高め，全身を元気にする（健脾温中益気）。基本方剤として人参湯が使用される。軽度なもので腹痛・胃痛を伴うもの，小児の脾虚証には小建中湯，腹部脹満感など気滞を伴うものには桂枝加芍薬湯が使用される。胃痛や自汗があるものには黄耆建中湯，寒証のために気滞が出現し，大腸蠕動運動低下 **注1**・腹痛・便秘などに大建中湯，腎陽虚が合併し浮腫・下痢などがみられるものには真武湯，脾

図1-42 脾の生理と病症



陽虚の浮腫には実脾散\*などが使用される。

**注1** 大腸の蠕動運動の低下症状として、腸がモコモコとするという訴えもよくみられる。

## 脾不統血証

脾の機能が低下し（脾虚），血の統血作用（経絡内に保持する作用）がうまく行かず，経絡外に漏れて出血を来した病態。出血症（血証）は，一般的に火や熱（虚実の両証にみられる）によって出現することが多い

**注2**。これに対し本証は，脾虚や気虚という火や熱以外の要因で出血するものである。長期の経過や体力の衰えた虚証などによくみられる。

**症状**：脾虚が基盤にあって出現したものであり，脾虚症状や全身的な気虚症状を伴う。

### ①脾虚症状と全身的気虚や陽虚症状

表1-10 脾虚証の鑑別

	共通症状〔脾気虚〕	特有症状	代表方剤
脾陽虚	〔胃腸症状〕 食後胃もたれ 下痢・軟便  〔全身症状〕 倦怠感 顔色萎黄や蒼白 弱々しい言語  〔舌脈〕 淡紅舌 薄白苔 弱濡脈	〔胃腸症状〕 腹部隱痛、喜温喜按 唾液が多い 食欲不振  〔全身症状〕 浮腫（下半身） 四肢の重だるさや冷感 白色で薄い帯下  〔舌脈〕 淡白色、肥大齒痕、 白滑苔、膩苔 沈細、弱脈	人參湯 小建中湯 大建中湯 真武湯 黄耆建中湯
中気下陷	(方剤) 四君子湯 六君子湯	〔胃腸・尿症状〕 慢性下痢、頻尿  〔全身症状〕 脱肛、子宮・内臓下垂、 下垂感、めまい、気虚発熱	補中益気湯
脾不統血		下血、血尿、皮膚出血、不正 性器出血、月經過多	帰脾湯 芎帰膠艾湯

②出血症状：下血・不正性器出血（崩漏<sup>†</sup>）・月經過多・血尿・皮膚出血斑（紫斑）・鼻出血などの出血症状（血証）が出現する。薄く淡い月経血や暗紅色の月経血がみられることも多い。脾虚のため陽気が上昇せず、下部の出血が多いのが特徴である。

③舌脈：淡白舌・白苔，細沈遅脈。

治法：脾胃の作用を強め体力を高めることで止血する（健脾益気止血）。補気薬や健脾薬を使用して治療する方法で、いわば体力を強めることで止血しようという方法だといえる。加味帰脾湯が一般的方剤である。虚寒証での不正性器出血（崩漏<sup>†</sup>）や過多月経には芎帰膠艾湯が使